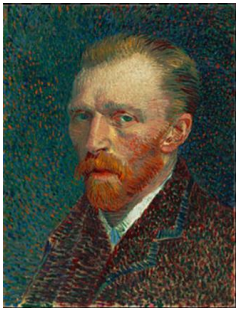


## 「糸杉と生命と夢」

今日は糸杉と生命と夢という題でお話をします。



この左の人物がみなさんがよく知っている 画家のゴッホです

そしてゴッホというと真ん中のひまわりの絵が有名です。

彼は何枚もひまわりの絵を描いており、この日本の会社が買い取った時のひまわりの絵の値段は58億円でした。そんな有名な画家のゴッホも生きている間は、彼の絵は評価されず、売れない



画家のまま37歳でなくなりました。

彼の死後に彼の絵が評価されて世界中に知られる画家となりました。

このひまわりの絵のとなりのクリスマスツリーが飾られている木が糸杉です。この木は世界中でクリスマスツリーとして利用されたり、公園や学校によく植えられているので、皆さんも見たことがあると思います。



この木は成長すると10メートルくらいの大木となります。

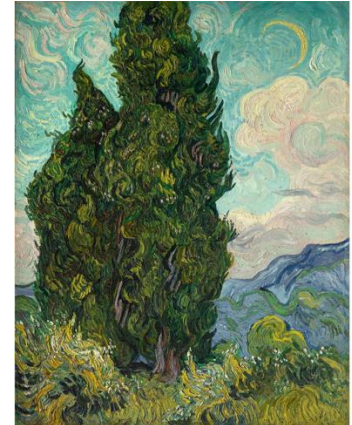
ゴッホはひまわりの絵を数多く描いたことで知られていますが、実は彼が死ぬ前ごろに この糸杉の絵もたくさん描いています。

それがこの絵です

大木の糸杉が描かれています

この糸杉は キリストがはりつけの刑に処せられた時の木だといわれ、ヨーロッパでは命の終わりを表すものといわれています。また、それと反対にぐんぐん成長し、寿命が長いので命の躍動を表すともいわれています

死と生というまったく違う意味で取られる糸杉ですが



ゴッホの糸杉はどうでしょうか

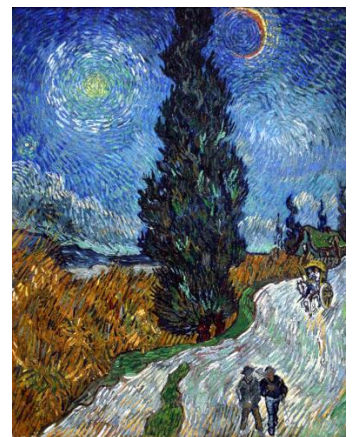
ゴッホの激しい筆づかいで空まで伸びそうな力強い大木の糸杉  
そして昼の絵でも夜の絵でも右上の空から光を照らす三日月

ゴッホはこの絵を描いたときに 弟に手紙を送っています  
その手紙の中で

「僕は絵に命をかけた。絵を描くことは、僕の夢であり、生きていることの証なのだ」といっています

ゴッホがこの絵を描いたころ、ゴッホは体調がよくなり、自分の死が近いことを悟っていたといわれています

だからこそ 一生懸命に生きたいと この糸杉の絵を描き続けたのかもしれない



皆さんには ごの絵はどう 訴えかけていますか

今年新型コロナウイルスのことで 病や命のことと常に向き合うことを必要とされています。

こんな中でも 希望を見出したり 自分の夢を見失わない気持ちの持ち方が大事ではないかと思えます

私はときどき この絵を眺めて 希望を失わない気持ちを 高めます

この冬休みも 辛抱の時期だといわれています。

いつもとは 違う生活の仕方ですが その分 家族と向き合い 話す時間をしっかりとって心を温めてほしいと思えます。

新型コロナウイルスは、いろいろ生活をする上での制限をさせますが、みなさんの夢や希望を奪い取ったりすることはできません。

希望を失わない 夢をあきらめない 自分の気持ちを高めることを心がけましょう。

来年も みなさんにとって いい年であることを願って 話を終わります

校長 堤 賢 二